

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103003
法人名	株式会社ユニケア
事業所名	アトラス堀江
所在地	松山市堀江町甲844番地 6
自己評価作成日	平成23年1月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当ホームは瀬戸内海を一望できる堀江海岸に面しており、波の音と潮の香りに包まれながら、ゆったりとした時間の中で落ち着いた生活を送ることが出来ます。職員は地域密着型サービスの意義を十分に理解した上で、地域との交流を深めている。地域の行事や奉仕活動にも利用者様と参加したり、又ホーム主催の夏祭りには地域住民を招いたり、朝・夕の犬の散歩を通じて近所の方々と挨拶を交わしたりしています。月2回の外出にはマイクロバスを使用し普段行けないような市外地へ行きます。また、協力医療機関である三好整形外科の支援・指導のもとグループホームでありながら専門機器を設備した効果的なりはびりに力を入れ、転倒予防にも役立っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

地域の活動である「海岸の清掃」に、夏は週1回、冬は2週間に1回、利用者と共に参加されて、近所の方達と一緒にゴミ拾い等をされている。又、事業所の飼い犬の散歩時に会う方とあいさつを交わしたり、犬を見に来てくれるような方もいるようだ。お隣の方が野菜をおすそ分けしてくれたり、めだかを分けてくださったこともあり、玄関で利用者と大切に飼っておられた。又、事業所の敷地内で行った夏祭り時には、テント張り等を地域の方が手伝ってくださった。管理者は、この一年間、事業所側から清掃活動等、積極的に地域の方達とかかわったこともあり、地域の方との距離が近くなったことを感じておられた。利用者が重度化したり、看取りの時期に当たるような利用者であっても、医師にご本人の現状を伝え、入浴の許可が出る間は、職員3名で大きなシートを使ってご本人が浴槽で温まることができるように支援されている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	<ol style="list-style-type: none"> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 		<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名

(ユニット名)

アトラス堀江

記入者(管理者)

氏名

堤 裕子

評価完了日

平成23年 1月 20日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員全員が地域密着型の意義を理解し、話し合った上で理念を作成している。理念は常に目のつく所に提示し、定期ミーティングや朝の申し送り時に話し合いながら日々の介護を振り返り、実践に繋げている。	
			(外部評価) 事業所では、利用者を中心に「家族 地域とともに 穏やかで笑顔のある暮らし」を支援できるよう理念に掲げておられ、管理者は、ミーティング時、職員に伝えたり、介護計画を作成する際にも、理念を意識して検討できるよう話しておられる。又、法人からは「職員はバタバタしない」等「職員が作り出す雰囲気」の大切さをよく話されるようだ。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域が行う海岸清掃や敬老会、運動会等の地域行事に参加している。また、事業所が中心で行う夏祭りでは地域の方々にも参加していただいたり、保育園との相互訪問や学生の体験学習受け入れ等、地域資源も有効に活用しながら地域とのつながりに努めている。	
			(外部評価) 地域の活動である「海岸の清掃」に、夏は週1回、冬は2週間に1回、利用者と共に参加されて、近所の方達と一緒にゴミ拾い等をされている。又、事業所の飼い犬の散歩時に会う方とあいさつを交わしたり、犬を見に来てくれるような方もいるようだ。お隣の方が野菜をおすそ分けしてくれたり、めだかを分けてくださったこともあり、玄関で利用者と大切に飼っておられた。又、事業所の敷地内で行った夏祭り時には、テント張り等を地域の方が手伝ってくださった。管理者は、この一年間、事業所側から清掃活動等、積極的に地域の方達とかわったこともあり、地域の方との距離が近くなったことを感じておられた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 職員の受けた研修内容を運営推進会議等で地域の方にも伝達したり、事例を踏まえて認知症高齢者の行動、支援方法を紹介して理解を深めている。また、地域の方々の介護の悩みや相談にも気軽に応えられるよう声をかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議で外部評価、情報公表の結果についての報告を行 い、出席者に意見を頂きながらサービスの向上に活かしている。こ れまで運営推進会議を定期的に行っていたが、今年度は2ヶ月に一度の開催を 実践できており、多彩な分野からの参加者も増えてきている。</p> <p>(外部評価) 会議は、以前は事務室で行っていたが、居間で行うようにされ、利 用者や職員の参加も増えたようである。会議には、保育園の園長 先生や他グループホームの職員も出席していただき、事業所から運 営状況や外出等の様子を報告したり「口腔ケアについて考える」 「災害について考える」等、議題をあらかじめ案内時にお知らせし て参加を求め、ともに知識や技術を勉強する機会にもなっている。</p>	<p>これまで地域との関係作りにはじっくりと取り組んで来られ、活動を通 して顔見知りになったような方も多いようである。事業所では今後、 災害時、特に「津波が発生した際には、利用者の避難を地域の方 にも協力をお願いしたい」と考えておられる。そのためにも、会議の 機会を活かして、地域の方達にもさらに認知症のことや事業所・利 用者のことを知ってもらえるよう、取り組みを工夫されてほしい。又、 看取り支援等、事業所で実際に取り組んでいるケアをもとにして 「地域や家族とともに」ケアについて考える機会を作り、それぞれの 立場からのご意見や感想をうかがってみてはどうだろうか。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 解らないことや困ったことがあれば、都度市の担当者に相談しており、夏祭りや茶話会など、行事の参加にも声かけをして積極的に協 力関係を築いている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時、市の担当者の方からは「ノロウイルス」「インフル エンザ」等、感染症について注意すること等を話していただいた。管 理者等は、他グループホームの運営推進会議にも参加されており、議 題やすすめ方等をヒントに、事業所でも「参加者とともに勉強 する」こと等を採り入れておられた。</p>	<p>解らないことや困ったことがあれば、都度市の担当者に相談しており、夏祭りや茶話会など、行事の参加にも声かけをして積極的に協 力関係を築いている。</p>
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準にお ける禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 玄関、ドアには施錠しておらず、誰でも自由に入出入りできるようにし ている。職員は「指定基準における禁止の対象となる具体的な行 為」を理解しており、それ以外であっても、利用者が不自由と感じる であろう行為については職員間でよく話し合い、拘束をしないケア に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 調査訪問時「ちょっと行って来ます」と出かけて行く利用者の方も あったが、職員は「外は寒いから気を付けて」と見送りつつ、そっと 見守っておられる場面が見られた。管理者は「利用者の立場で考 える」ことを常々職員に語っておられ、職員が一丸となって「利用者 中心のケア」に向けて取り組んでおられる。たとえば、利用者が排 泄物を隠そうとされるようなことがあっても、拘束するのではなく、職 員で話し合いを重ねて、ご本人の行動の奥の気持ちを察して支援 していくことを続け、状態が改善したような方もおられる。足元が不 安な利用者もいるが、ご本人が起きて先ずタンスを開ける習慣を活 かして、ご本人が動物がお好きな方でもあり、タンスの上に振動で 「ニャーン」と鳴くぬいぐるみを置いて、職員が気付くようにされてい た。</p>	<p>調査訪問時「ちょっと行って来ます」と出かけて行く利用者の方も あったが、職員は「外は寒いから気を付けて」と見送りつつ、そっと 見守っておられる場面が見られた。管理者は「利用者の立場で考 える」ことを常々職員に語っておられ、職員が一丸となって「利用者 中心のケア」に向けて取り組んでおられる。たとえば、利用者が排 泄物を隠そうとされるようなことがあっても、拘束するのではなく、職 員で話し合いを重ねて、ご本人の行動の奥の気持ちを察して支援 していくことを続け、状態が改善したような方もおられる。足元が不 安な利用者もいるが、ご本人が起きて先ずタンスを開ける習慣を活 かして、ご本人が動物がお好きな方でもあり、タンスの上に振動で 「ニャーン」と鳴くぬいぐるみを置いて、職員が気付くようにされてい た。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修や会議等で虐待について学ぶ機会を持ち、日々の生活の中でも常に利用者の精神面、身体面の状態観察に気を配っている。また、虐待理由の一つである職員のストレスにも目を向け、定期的な面談を行い、職員の心のケアを行うことでも虐待防止に努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度についての研修に参加したり、定例ミーティング等で職員皆が学ぶ機会を作っている。実際に必要な方には申請を行い、後見人をつけている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には理解、納得を得られるように十分な説明を行うと共に、どんな些細な疑問についても質問ができるよう配慮している。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 重要事項説明書に苦情相談窓口を明記し、ホーム入口に意見箱も設置している。日頃から利用者と家族、職員が気軽に意見を言い合えるような関係作りに努め、要望を運営に反映させている。 (外部評価) ご家族の来訪時は、職員は笑顔で迎えられ、日々の利用者の様子等をお話しながら要望等を聞き取るようにされている。事業所では「家族帳」を作成して、ご家族への伝言やご家族から聞いたこと等を個々に書き留めておられ、全職員で共有して「行き違い」が起きないように気を付けておられる。又、管理者は、電話でも、ご本人の状態や様子を細やかに連絡することを重ねられ、ご家族との信頼関係を作って来られている。ご家族は、ご本人の外泊時に備えて「トイレ介助」を職員と一緒に試みられることもある。	事業所では、今後、家族会等、「家族同士が集まる機会作り」や、又「地域の方とご家族が交流する機会作り」等にも取り組みをすすめていきたいと考えておられた。ご家族とも相談しながら、具体的にご意見や要望を聞けるような会の工夫を重ねていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 改善提案書や定期的なミーティングで職員の意見、提案を聞き取り、それらをより良い施設運営に反映できるよう努めている。また、運営者も出席する法人代表者会議でも報告をしている。	
			(外部評価) 運営推進会議を事業所の居間で開催することで、職員も会議に関心も持たれるようになり、職員自らが希望して「感染症について」等、皆の前で講義をされる等、運営推進会議に積極的にかかわるようになられたようである。管理者は、記録物の中からも職員のメンタル面の变化等を感じ取り「どうした？」と、管理者の方から話しかけるようにされている。職員は、管理者を信頼されており、職員のお一人が「職員の仲が良いからよいケアができる」と話してくださった。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の努力、実績、勤務年数等が給与水準に反映され、各自が向上心を持って仕事できるような仕組みになっている。また、職員個々の生活にも配慮がなされており、勤務場所や勤務時間、勤務部署等の職場環境、条件整備に努めている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 本人の経験や技量に合わせて、法人内外の研修への参加を勧める他、職員本人の希望する研修へも参加できるよう調整している。スタッフ会議では伝達講習の時間も設け、研修に参加できなかった職員の知識、技術の向上にも努めている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域包括支援センターの連絡会を通じて、ネットワークが広がりがつある。地域でのグループホーム運営推進会議や、研修にもお互いが出席し合い、同業者との交流を持ちながらサービス向上に努めている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面談での状況把握に努めており、本人の思いや求めていることに、出来るかぎり応えられるよう努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>事前に話をよく聞き、不安や困っていることを把握している。こちらからも解決していくための提案をし、改善に繋げながら関係を築いている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>その時の状況、何が必要であるかを見極め、他のサービス利用も視野に入れた対応を行っている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>共に生活していく中で、本人の性格や得意なこと、不得意なことなどを見つけ、利用者が安心した暮らしを送れるよう配慮している。また、お互いに助言をしたり、ときには教えあったりしながら、お互いの必要性が感じられるようにしている。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>家族とも情報を交換し、相談または時間を共有する等の工夫をして、家族と一緒に支えていく関係作りに努めている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>昔馴染みの友人がホームを訪れたり、手紙や電話を利用して関係の継続を大切に支援している。外出時には行きつけのお店で買い物をしたり、利用者の希望される場所へ出かけるなど、馴染みの場所との関係継続にも努めている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>利用者の親族の方がかかわっておられる喫茶店に、ランチを食べに出かけられたり、又、娘さんが来られることを楽しみに待っておられる利用者は、娘さんが来られると居室でおやつを食べながら数時間おしゃべりを楽しまれるようである。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日々の生活の中で利用者同士の関係を把握し、気の合う者同士が楽しく過ごせるような場を設けたり、利用者同士の共通した趣味を見つけていく等の工夫をしている。一人ひとりが孤立せず、より良い人間関係が築けるよう努力している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後も、現在の状況を把握するために訪問や電話をしたり、必要に応じてはいつでも相談を受けられるようフォローしている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望や意向をしっかりと把握し、希望に沿った生活を送っていただけるよう支援している。把握が困難な場合には、家族からの情報やアセスメント、言動や表情を基にミーティングで話し合い、本人本位に検討している。 (外部評価) 事業所では「気付きノート」を作成しておられ、その日勤務の職員が、利用者一人について「本日気付いたこと」を記入するようになってい。「さんとめずらしく話していた」「～しながら怒っていた」等、その職員がその利用者を知り得た一場面を書き留めておられる。お若い頃からの写真が収めてあるアルバムを大切にされて、時々見ながら以前のことをお話してくれる利用者や、居室の犬のぬいぐるみに思いを打ち明けられる利用者もあり、職員は、ご本人のこれまでのことや思い等をよく知っておられる。	「特に意向はない」「お任せします」と言われるような利用者の方もいるようで、事業所ではそのような利用者の思いを探っていくこともすすめていきたいと考えておられる。事業所の「気付きノート」の情報を整理しながら、ご本人が求めている暮らし方の希望や興味のあること等を探り、介護計画に採り上げながら、さらなる利用者主体の支援につなげていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) アセスメントシートやセンター方式を活用し、日常生活の中でも本人、または家族から情報収集を行いながら、職員皆が共有できるよう記録に残して把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の記録や申し送りを十分に活用し、一人ひとりの生活、状態を皆が把握できるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人、家族の声を聞き、アセスメントを基にして職員会議やカンファレンスの場で介護計画を作成している。状態の変化時や3ヶ月毎に見直し、現状に即した介護計画としている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画を作成する前には、利用者ご本人に「生活への希望や、痛いところはないか」聞き取るようにされている。又、ご家族の来訪時に、ご本人の暮らしやケアへの要望をお聞きして、職員で話し合いの場を持ち、介護計画を作成されている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日々の記録に生活であったことや話した内容などを細かく記入し、見直しに活かしている。また、気づきノートを作成して些細な出来事も気軽に記入できるような工夫もしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人や家族の状況に応じて、買い物、通院などの必要に応じた支援、サービスを行うよう努力している。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>これまでに利用してきた地域資源を含め、新たな地域資源を増やししながら、より豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 協力医療機関と連携を図り、定期健診や必要に応じて受診を行っている。希望のかかりつけ医がある場合には、そちらへ受診できるよう支援している。	
			(外部評価) 協力医療機関の受診にはご家族が付き添っておられるが、ご家族のご都合に応じて職員が同行することもある。事業所の看護師資格を有する職員が利用者の健康管理を行い、必要に応じて協力医療機関等と連絡を取り合い支援されている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 介護職員と看護師が日常の健康管理を行い、異常に気付いた際はお互いに相談、確認をしながら協力医療機関や必要な医療機関への受診を行っている。また、その後の看護も連携を取りながら進めている。	
			(外部評価)	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院した際には、度々病院へ出向いて安心した治療が行えるよう努め、医療機関とも共同、連絡を取りながら、できるだけ早期退院できるよう取り組んでいる。	
			(外部評価)	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取り指針を作成しており、入所時の早い段階から家族へ説明をしている。また、状況の変化に応じて、協力医療機関の医師を交えた話し合いも行っている。職員は看取りケアについての研修を受けており、重度化や終末期に向けた方針の共有に努めている。	
			(外部評価) 利用契約時に看取り支援等についても説明されているが、ご家族に利用者の状態を電話でお伝えする際にも、今後の支援について相談をされている。この一年間で3名の利用者の看取りを支援されており、協力医療機関の医師の指示を仰ぎ、又、医師の往診もあご家族とともに看取られた。職員は、ご本人の最期の時まで、声をかけてさし上げたり、好きな歌を歌ってさし上げる等、ご本人、又、ご家族の思いを大切にしながら支援に努められた。ご家族はともに看取りを経験されて「病院じゃなくてもいい」ということを感じられたり、職員に「素晴らしい看とりだった」と感想を言ってくれたようだ。職員は「はじめは不安が大きかったが、看取り支援を重ねるごとに、職員のチームワークがよくなっている」と感じておられ、又、管理者は、看取りを経験し「利用者を最期まで支援することを考えながら今を支援している」と話しておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時・事故発生時に備えて社内研修を行うとともに、緊急時対応マニュアルも整備している。定期的な勉強会も開催しており、職員全員が実践力を身に付けている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 緊急連絡網、避難マニュアルを作成し、年2回の防災訓練を行っている。それ以外にも自主防災訓練として、火災、地震、水害等、様々な災害を想定した訓練で全職員が非難できる方法を身につけている。地域との協力体制も、運営推進会議で訓練を行うことで、少しずつアドバイスや協力を得られるようになってきている。 (外部評価) 運営推進会議時に、消防署の協力を得て防災訓練を行ったり、講演や救急救命法の講習等も受けておられる。事業所は海岸沿いに位置した建物1階部分にあるグループホームで、津波の危険等も考えられるため、消防署の方から「いざという時には2階に避難するよう」アドバイスをいただいた。今後、地域の方にも協力をいただきながら避難訓練等を行うよう、取り組みをすすめていきたいと考えておられた。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員一人ひとりがプライバシー保護について学び、言葉使いや対応等、節度を持って接している。トイレ誘導や入浴の際の言葉使いには特に気をつけ、プライバシーを傷つけないよう配慮している。 (外部評価) 職員は、利用者にお若い時の仕事や大切なご家族のこと等も話題にしなが、ともに大切に思い続けられるよう支援されていた。「何でも忘れてしまう」と嘆く利用者「忘れたということ覚えてるから、大丈夫」と切り返し、ご本人と一緒に笑いながら過ごされていたような場面も見られた。台所の後片付け等、利用者自らが「やろうとすること」に職員は手を出し過ぎず、ちょっと離れたところから見守っておられた。ご自宅で暮らしておられた時から、あまりお部屋からは出て来られなかったような方もおられるが、ご本人の生活スタイルを急に変えてしまうのではなく、何年も時をかけて、皆の中に誘い、現在は台所や海岸の掃除等の活動にも参加されている利用者もおられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員が物事を決めることはなく、生活の中にゆったりとした時間を持つことで、利用者本人が自己決定できるような環境作りに努めている。また、職員にも利用者からの希望や思いを引き出すためのコミュニケーション技法を身につけてもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 常に本人のペースを優先し、本人の過ごしやすい環境作りを行っている。共同生活なのでホームの決まりごとは大切だが、本人の状況を見極めている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 個々の個性や希望に合わせた対応を心掛けている。行きつけの美容室に行かれたり、買い物などでも洋服選びを楽しまれている。中には通信販売を利用されている方もいる。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 栄養士が立てた献立を基本に、利用者の好むメニューや季節のメニューを取り入れたり、一緒に作った野菜で料理を作るなど、楽しみを取り入れながら準備から食事、片付けまで全てを一緒に行っている。	
			(外部評価) 法人の栄養士が立てた献立に沿って、職員が食材を買いに行かれて利用者と共に食事作りをされている。時に法人で献立についての話し合いが持たれ、利用者の好みや食べやすさ等を伝えて反映してもらうようになっている。利用者からのリクエストがあった場合は、柔軟に変更する場合もある。調査訪問時、利用者それぞれにご自分で食事をされており、又、お箸を持ち、手も使いながらもご自分の力で食べる利用者もおられ、職員は言葉をかけながら支援されている様子が見られた。食後には、女性の利用者と男性の利用者が二人で食器や鍋を拭いて戸棚に閉まってくださるような様子も見られ、職員は「利用者の思うようにしてもらいたい」と考え、後で職員が見直しをされている。現在は「パンがいい」「朝からごはんだと昼が食べれない」等の意見や希望があり、毎日朝食はパンと牛乳・バナナ、果物の缶詰となっている。月に2回、移動パン屋が来てくれ、いろいろな種類のパンを並べて、利用者個々が好きなパンを選んで買い、おやつにされている。「あのパン屋のあんこはおいしいんよ」と教えてくれた利用者もあった。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの食べる量の把握や、バランスの良い食事作りを心掛けている。摂取量は毎回記録へ残し、状態に応じた支援をおこなっている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりに合わせた口腔ケアを毎食後実施され、徹底できている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握しており、トイレでの排泄ができるよう支援している。	
			(外部評価) 昼食前や昼食後、歯磨きをした後等にトイレに誘導しておられる様子が見えた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 職員は便秘の原因や及ぼす影響を理解しており、食事は栄養士によるメニュー作りを行っている。また、犬の散歩やリハビリを利用して運動を促し、協力医療機関とも連携を取りながら予防に努めている。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 衛生面を考慮して2日に1度の入浴を基本としているが、利用者の希望や状況により日をずらしたり、いつでも入れるよう個別に支援している。	
			(外部評価) 毎日お風呂を沸かして、2日に1回は入浴できるよう支援されている。職員は「自分だったらどうか」という視点で支援しておられ、ご本人の希望もあって、毎日入浴する方もおられる。お風呂がお好きな方が多く、入浴剤を入れたお風呂を楽しみにして入る方や湯上りのドリンク剤を楽しみに入る方もいるようだ。利用者が重度化したり、看取りの時期に当たるような利用者であっても、医師にご本人の現状を伝え、入浴の許可が出る間は、職員3名で大きなシーツを使ってご本人が浴槽で温まることできるように支援されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活パターンを把握した上で、状況や希望に応じて昼寝を取り入れたり、日中は軽くりハビリ、レクリエーション等で楽しみながら運動と休息のバランスも大切に行っている。就寝時も本人の希望に合わせて声かけ、誘導を行っている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの服薬目的、効能、用量などを一覧表にて、誰もがわかるようにしている。また、症状の変化がみられた際には、医師と相談をして対応を行っている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人の出来ること、出来ないことを把握しながら、普段の生活の中に役割をもって過ごしていただいている。これまでの生活歴から、楽しみにしていたことも継続して行えるように支援している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 月に2回マイクロバスを使用し、皆で楽しみながらお出掛けする機会を作っている他、希望に合わせて個別での外出も行っている。家族の方にも参加を呼びかけており、運営推進会議を利用して、地域の方にも協力を得られるよう努めている。	
			(外部評価) 毎月外出の計画を立てて、法人のマイクロバスを利用して出かけておられる。法人では、法人内の系列事業所ごとにマイクロバスを運転できる職員を確保できるよう、大型免許取得についても協力されており、皆で外出を楽しめる体制作りにも努めておられる。喫茶店でランチを食べたり、奥道後での昼食バイキングも楽しみな行事になっている。又、系列事業所との行き来もあり、今月は、ホームに他事業所の利用者も来てチョコレート作りをされるようだ。又、今月末には回転寿司でお寿司を食べて、砥部町の七折の梅を見て、スーパーで買い物をして帰るような日もあるようで、居間に行事予定を掲示し、話題に上り楽しみにされていた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を所持したいという希望があれば自分で所持していただいている。買い物の際には同行しながら、適切に品物を購入できるよう見守っている。それ以外の方に関しても、個々の力に応じて小額の所持や、支払いをしてもらうなどの工夫をしている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の希望があれば、自由にかけて話をしていただいている。かかってきた場合にも、なるべく静かな所で話ができるよう支援している。手紙についても、切手購入や投函をスムーズに行えるようお手伝いしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>毎日の掃除により衛生管理を徹底している。台所はリビングと対面式になっており、調理の匂いや音は一般家庭のような生活感を漂わせている。廊下や居間には行事の写真や手芸品、花等を飾り、温かみと季節感じながら居心地よく過ごせる空間となっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所には、居間の続き部屋にリハビリ器具が複数台設置されており、自主的に利用しながら筋力アップに励んでおられる男性利用者の様子が見られた。利用者で掃除機をかけてくださる方があり、職員と一緒に毎日掃除をされている。居間の窓から海が見え、季節や天候等もよくわかる。加湿器を置き、湿度管理もされている。カウンターキッチンで職員が食事を作る様子を居間のテーブル席から見るのが好きな方がおられたり、台所のわきの椅子に座って、食事の後片付けのご自分の出番を待っておられる利用者もあった。又、利用者の習字作品が入賞した際の賞状を飾っておられたり、居室の入り口には保育園の園児からもらった手作りの首飾り等を飾っておられた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>廊下の所々にソファや椅子を設置しており、そこで日向ぼっこや談笑ができるようにしている。また、気の合う者同士がなるべく近くで過ごせるように配慮している。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>布団、タンス、ベッド等は施設側で準備することもできるが、本人の使い慣れた家具や馴染みのある品がある方には自由に持ち込みをして頂き、居心地良く自分らしい生活が送れるよう工夫をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入居まだ間もない利用者は、ご自分の居室が分かるように、入口に色のきれいな造花を付けて目印にされていた。毎日、朝起きるときちゃんと布団を畳む方もおられる。犬のぬいぐるみに「寒かろう」とご自分のハンカチやスカーフをかけてあげている方も見られた。お花がお好きな利用者、ご家族が造花をたくさん持って来てくれて飾っておられるような居室も見られた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>スロープや手すりの設置、段差の解消、身障者用のトイレ設備等により、自立に向けた生活が送れるよう支援している。</p>	